

単元名

「おはなしたまてばこ」

平成28年10月3日

～おきに入りのえほんを ほいくえんのもだちに しょうかいしよう～

男子11人 女子8人

「サラダでげんき」(東京書籍)

計19人

本単元で育成する資質・能力

自己理解・自らへの自信 (資質・能力ルーブリックレベルⅢ)

1 単元について

I : 【考え・基礎知識】

登場人物の行動や会話に着目して想像を広げながら物語を読む。

C : 【つながり】

お気に入りの絵本についての紹介の仕方を理解し、「おはなしたまてばこ」の人物カードや「お気に入りカード」を作る。

E : 【応用・ひろがり】

- ・ 保育園の友達にお気に入りの絵本を紹介する。
- ・ お気に入りの本を増やす。

児童の実態

- ★ 思いついたことをすぐに発言し、自分の思いが分かりやすく相手に伝わっているか意識しながら、自信をもってじっくりと話すことはまだできにくい。 —①
- 1学期の教材「とんこととん」や「おおきなかぶ」では、役割を決めたり、動作化したりして楽しく読むことはできたが、大好きな場面を理由付けて友達に伝えることは難しかった。 —②
- 生活の中に読書を位置付ける「はらどくカード」の取組で、1学期の目標冊数36冊を達成した児童は100%であるが、読後の感想を友達と交流している児童は少ない。 —③

教材について

- 主人公や動物の優しさに触れみんなで難題を解決していくという展開である。
→ 1年生として、自分も周りの人に何かできることはないかを考えたり、経験とかかわらせたりして読み深めることができる。
- 登場人物が一人ずつ順番に現れて、話が展開していく。
→ 主語・述語の関係がとらえやすく、登場人物の行動や会話に着目して、想像を広げながら読み深めていくことができる。
- 同種の語句を重ねて、次第に表現内容が強調されている。
→ ストーリー展開の面白さを感じ、自分の「お気に入り」やその理由を伝えたいという思いをもつことができる。

育成したい資質・能力と目標 ★資質・能力 ○国語科◎国語科重点目標

- ★ 学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気付くことができる。 【自己理解・自らへの自信 資質・能力ルーブリック レベルⅢ】
- 読んだ本について、好きなところを紹介するために、本を選び、楽しんで読書しようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。 【読むこと ウ】
- ◎ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うことができる。 【読むこと オ】
- 文の中における主語と述語との関係に注意することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(カ)】

パフォーマンス課題とその特徴

生活科「つくろうあそぼう」と関連付けて、保育園の友達に「おはなしたまてばこ」を作り、お気に入りの絵本を紹介する言語活動を設定する。選んだ絵本に対する自分の思いが伝わるように紹介するために、「たまてばこ」の中に何が必要かを考え、登場人物の絵カードやお気に入りの場面と理由が書かれた「お気に入りカード」を作成する。お気に入りの場面と理由を確かめるために、何度もお話を読み返し、登場人物の行動や会話に着目して自分の読書経験と関連付けながら読み深めていけると考える。また、自分の思いをまとめて交流する活動を通して、一人一人が自分の考えをもち、様々な感じ方や考え方があることに共感したり、自分でも自信をもって話したりする学習過程で、本単元で付けたい資質・能力を確実に育成できると考える。

指導のポイント

- ① 自分のお気に入りの絵本を「見付ける」「紹介するために必要なものを考え、作る」「紹介する」という一連の活動に必然性をもたせる。保育園の友達にお気に入りの絵本を紹介するという相手意識をもたせることで、自分の思いが伝わるように分かりやすく紹介したいという意欲を高める。
- ② 「お気に入りカード」には、お気に入りの場面や理由の項目を入れ、登場人物の行動や会話に着目して理由を見付けたり、自分の知識や経験と結び付けたりして考えさせる。また、相手に思いを伝えるために、「お気に入りことば」を例示しながら語彙を増やしていく。
- ③ 保育園の友達に紹介する本を選ぶためにブックリストを作成して掲示し、並行読書を行わせる。読後には、絵本の気に入った場面に名前入りの付箋を貼らせ、ブックリストの掲示物には、今、一番お気に入りの本の題名に付箋を貼らせる。付箋がどんどん増えて、自分の一番お気に入りの絵本が変化したりする様子が可視化できるようにする。また、教材文「サラダでげんき」の全体が見渡せる「ジャンボ教科書」を作成し、その中にも各自がお気に入りの場面に付箋を貼って掲示をする。これらの活動を通して、学級全体の読書への関心を高め、自然に読書交流ができると考える。

2 単元の評価規準

<p>資質・能力 【自己理解・自らへの自信】</p>	<p>★ 読んできた絵本の中から自分の「お気に入り」の一冊を選んで、「おはなしたまてばこ」を作り、学級や保育園の友達と関わりながら紹介することを通して、達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気付いている。 【原小学校 資質・能力ルーブリック レベルⅢ】</p>	
<p>国語への関心・意欲・態度</p>	<p>読む能力</p>	<p>言語についての知識・理解・技能</p>
<p>○ 物語に描かれている世界に浸りながら、お気に入りの作品に対する思いが伝わるように本の楽しさを友達と共有し、紹介しようとしている。</p>	<p>○ お気に入りの場面の様子について登場人物の行動や会話に着目して、想像を広げながら読んでいく。(ウ) ◎ 文章の内容と自分の知識や経験などを結び付けて、好きな場面を選び、絵カードなどを使って紹介している。(オ)</p>	<p>○ 文の中における主語と述語との関係に注意し文章を読んでいる。 イ(カ)</p>

3 単元の計画 (全 14 時間)

次 時	学 習 内 容	評 価	
		関 読 言	○教科の評価規準 (評価方法) ★資質・能力の評価規準 (評価方法)
単元前	(生活科) 課題の設定 (生) 課題発見のため ・ 来年度入学してくる保育園の友達のために、1年生としてできることを考える。		運動会では、「かけっこをがんばったね」のペンダントをプレゼントして、喜んでもらったよ。 今度は、ぼくたちが保育園に行って、勉強したことを教えてあげたいな。
1	課題の設定 (国) 課題発見のため 1 ・ 保育園の友達に、どのようにしてお気に入りの絵本を紹介するかを考え、教師自作の「おはなしたまてばこ」を見て、活動への見通しをもち学習の計画を立てる。	○	○ 単元のゴールを理解し、自分がお気に入りの絵本を選び、保育園の友達にお気に入りの絵本の「おはなしたまてばこ」を作って紹介することに意欲的に取り組もうとしている。 (児童観察)
2	情報の収集 教材文から 2 ・ 場面の様子や登場人物の行動や会話に着目して、想像を広げながら「サラダでげんき」を読む。 3 4 5 整理・分析 教材文から 6 ・ 「サラダでげんき」の学習を振り返り、お気に入りの場面を選ぶ。 7 ・ 「サラダでげんき」の「お気に入りカード」を作り、お気に入りの場面と理由を紹介し、友達と交流し合う。【本時】	○ ○ ○ ○ ○	○ 主語・述語の関係に注意し、誰がどんなことをしたのか見付けながら読んでいる。 (ジャンボ教科書)・児童観察 ○ 登場人物の行動や会話に着目して、場面の様子を想像しながら読んでいる。 (ワークシート・児童観察) ○ お気に入りの場面を教材文から見付け、理由を考えている。 (付箋・児童観察) ○ 「お気に入り」の場面や理由を自分の知識や経験、読書体験などと結び付けて紹介している。 (「お気に入りカード」・児童観察) ★ 友達の「お気に入り」を共感的に聞き、自分が感じたことを「いいねシール」を貼って伝え合うことで、自分のよさや可能性に気付いている。 (「いいねシール」・児童観察)
3	まとめ・創造・表現 8 ・ 並行読書の中から自分のお気に入りの絵本を選び、「お気に入りカード」を書き、「おはなしたまてばこ」を作る。 9 10 ・ 「おはなしたまてばこ」を使って、友達にお気に入りの絵本を紹介し、意見交流を行う。 11 実行 12 ・ 「おはなしたまてばこ」を使って、保育園の友達にお気に入りの絵本を紹介する。 13 振り返り 14 ・ お気に入りの絵本を保育園の友達に紹介したことを振り返る。	○ ○ ○ ○	○ 紹介する絵本の世界に浸りながら、お気に入りの場面とその理由を考え、「お気に入りカード」と「おはなしたまてばこ」を作っている。 (「おはなしたまてばこ」・児童観察) ○ お気に入りの場面や理由を聞き合い、友達と感じ方や考え方を深め合っている。 (「おはなしたまてばこ」・児童観察) ○ 保育園の友達に「おはなしたまてばこ」を使って、お気に入り絵本に対する思いが伝わるように紹介している。 (「おはなしたまてばこ」・児童観察) ★ 保育園の友達に、自分のお気に入りの絵本を自信をもって紹介している。 (児童観察) ○ 読書の楽しさを友達と共有し、進んで紹介された本を読もうとしている。 (はらどくカード) ★ お気に入り絵本の紹介を振り返って、やりとげた達成感を味わい、自分のよさや成長に気付いている。 (ワークシート)
単元後	(生活科) ・ 保育園の友達とのつながりを大切に、「もうすぐ2年生(あたらしい1ねんせいをしようたいしょう)」で交流を深める。 (実生活) ・ お気に入りの絵本を増やしたり、友達の紹介した絵本を読んだりして、読書(はらどく)を広げていく。		去年、私たちも、小学校に遊びに来るのが楽しみだったね。入学が楽しみになるように、楽しい集会を開こうよ。 集会でも、お気に入りの絵本を紹介してあげよう。 1年生の目標冊数を、みんなでクリアしたいね。 ○○さんがお薦めしてくれた本は、～のところが～だから、感動したよ。

4 本時の展開 (本時 7/14)

(1) 本時の目標

- ★ お互いの「お気に入り」を聞き合い、自分が感じたことを交流することで、自分のよさや可能性に気付くことができる。 【資質・能力/自己理解・自らへの自信】
- ◎ 「お気に入り」の場面や理由を自分の知識や経験、読書体験などと結び付けて紹介することができる。 【国語科/読むこと オ】

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への手立て	評価規準 (評価方法) ○教科の指導事項 ★資質・能力
課題の設定	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。	◇ 自分の「お気に入り」を選び、付箋を貼った全文掲示を見て、様々な場面に「お気に入り」があることに興味をもたせる。 ともだちに しっかり つたわるように	いろいろな場面に「お気に入り」があるんだね。お気に入りのわけを聞いてみたいね。 しようかいしよう。
情報の収集	3 「お気に入りカード」の書き方を確かめる。 4 お気に入り場面の理由をまとめて「お気に入りカード」を書く。 5 お気に入り場面と理由を発表し合う。 ・ 違う場面を選んだ友達同士で交流する。	◇ まず、学級の友達を納得させるような紹介の仕方を学び、保育園の友達に分かりやすく紹介するというゴールのイメージと目的意識をもって活動に向かわせる。 ◇ 「お気に入りカード」の書き方の手順を示しながら、確認させる。 ① お気に入りの場面の1番好きなところに線を引く。 ② 誰がどうした(何と言った)場面か、カードに書く。 ③ お気に入りの理由を自分の経験とつなげて書く。 ◆ 自分の思いを込めて理由付けができるように、「お気に入り言葉」の例を掲示する。 ◆ 「自分だったら?」と想像させたり、「前に同じようなことがなかったか?」と経験を思い出させたりすることで、理由につながる思いを引き出す。 ◇ 友達の発表と自分とを比べながら聞かせ、お気に入りの理由の共通点・相違点に気付かせ、感じたことを「いいねシール」を貼って伝えさせる。 ◇ 教師の「お気に入りカード」を提示し、「いいねシール」の貼り方や貼った理由を例示する。	線は、長く引かずに大事なところに短く引くんだね。 お気に入りのわけを伝えるための大事な言葉は何かな。 自分にも同じようなことがあったよ。 ★ 友達の「お気に入り」を共感的に聞き、自分が感じたことを「いいねシール」を貼って伝えている。 (「いいねシール」 ・ 児童観察)
まとめ	6 本時のまとめをする。 【まとめの例】	◇ 友達に「お気に入り」が伝わったかどうか、交流後の「いいねシール」を取り上げながらまとめる。 ぼくは、アフリカぞうが スプーンを はなで にぎって、 「おいしくなあれ」と シェフみたいだね。(くれより) かぶよく くりん くりん と まぜる ところが すきです。 「げんきに なあれ」と ちからを こめて まぜているね。(はらより) わけは、 いっしょうけんめい まぜている からです。 しあげを がんばっているんだね。(はらだより)	○ 「お気に入り」の場面や理由を自分の知識や経験、読書体験などと結び付けて紹介している。 (「お気に入りカード」 ・ 児童観察) 友達に「いいねシール」をたくさんもらって、「お気に入り」がよく伝わったことが分かったよ。うれしいな。
振り返り	7 本時を振り返り、次時につなげる。 【振り返りの例】	◇ 自分が選んだ絵本について、付箋を貼った「お気に入り」場面の理由を紹介し合うようにする。 『○○』の本を保育園の友達に紹介してあげたいです。わけは、わたしだったら、逃げ出しそうだけれど、△△は、勇気を出して～にチャレンジしているからです。 自分だったらどうか、よく考えているからいいね。ぼくも、自分と比べて発表するぞ。 ◇ 振り返りカードに本時の学びや次につなげたいことを書く。 「お気に入り」のわけが、しっかり伝えられたぞ。 ぼくの紹介したい本のお気に入りのわけを早く「お気に入りカード」に書きたいです。	★ 交流したことを通して、自分のよさや可能性に気付いている。 (「振り返りカード」 ・ 児童観察)

5 板書計画

めあて
 ①おきにいのり の ばめんの 「ばん すまな さつごごせん」 を ひく。
 ②おきにいのり の 「ほめん」 を かく。
 ③おきにいのり の 「わけ」 を かく。

わか
 「かとおふしを 入れると いいですよ。」
 と おしえてくれた。 ばめんが すきです。
 わけは おさかなパワーが こんなに 大きくは しらなかつたからです。
 木のぼりが できるくらい げんきに なるなんて、しら なかつたよ。(くれより)

わか
 わたしも、たこやきに かけた とき、げんきが でしたから。(はらより)

わか
 【いいねシールの はりかた】
 ・なるほど
 ・そういう わけ なんだね。
 ・いいね
 ・わたしと おなじ わけだね。
 ・わけが よく わかつたよ。
 ・すばらしい
 ・こんな わけは、おもいつかなかつたよ。
 ・じぶんと くらべたんだね。

わか
 「おいしくなあれ」と シェフみたいだね。(くれより)
 「げんきに なあれ」と ちからを こめて ませているね。(はらより)
 わけは、いっしょうけんめい ませている からです。
 しあげを がんばっているんだね。(はらより)

わか
 ぼくは、アフリカぞうが スプーンを はなでにぎって、
 カづよく くりん くりんと ませる ところが すきです。

わか
 「おはなしたまじほう」
 「おきにいのり」 えほんを ぼくへのたのびをたのびに「いっしょうけんめい」
 じぶんの よさ・じしん
 サラダで げんき
 かどの えいこ
 ともだちに しつかり つたわるように しょうかいしよう。

6 資質・能力ルーブリック

自己理解・自らへの自信	判断基準
A	友達の「お気に入り」を共感的に聞き、自分が感じたことを「いいねシール」を貼り、わけを書いて伝えている。
B	友達の「お気に入り」を共感的に聞き、自分が感じたことを「いいねシール」を貼って伝えている。
C	友達の「お気に入り」を聞くが、自分が感じたことを「いいねシール」を貼って伝えていない。